

学校だより

ひがし

令和5年11月2日発行
第8号
伊豆市立修善寺東小学校
TEL 0558-72-0420

学校教育目標 【自ら未来を切り拓く 東っ子】

重点目標【自分の考えをもち表現しよう】【人を大切にしよう】【目標に向かって、挑戦しよう】

全国学力・学習状況調査の結果と考察

4月18日に6年生が行った全国学力・学習状況調査の結果と考察をお知らせします。この調査の目的は、「各学校が児童の学力や学習状況の現状を把握し、子供たちの学力向上のための取組に生かしていくこと」にあります。本校でも全職員で結果を分析し、一人一人の課題を把握しながら対策を考えました。各学年の日々の授業に生かすとともに、実態に応じたきめ細やかな指導方法を工夫・改善し、学力向上に取り組んでいきたいと思ひます。

【教科に関する調査の結果と考察】

★本校の平均正答率は、国語・算数とも、全国平均を上回りました。無解答の問題はなく、最後まで粘り強く問題に取り組む姿勢が身に付いていると感じました。

★国語

「話すこと・聞くこと」の領域の正答率は全国平均より高く、必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心をとらえる力が確実に身に付いていることが分かりました。

課題が見られたのは、「書くこと」の領域で、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することでした。誤答の要因としては、グラフから分かることを関連づけて捉えることができなかったことが考えられました。図表やグラフのそれぞれの特徴を理解し、場面に応じ、どんな図表やグラフを用いるとよいのか考える力を付けていきたいです。図表やグラフなどを用いると自分にとっても考えを深めやすく、相手にとってもよく理解できる文章になることを実感できるように、複数の資料や図表などを活用して調べたり考えたりしてまとめたことを報告する活動を設定していきたいと思ひます。



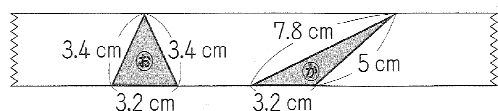
★算数

すべての領域で正答率は、全国平均より高く、基礎的・基本的な内容は、よく身に付いていることが分かりました。

課題が見られたのは、「図形」の領域で、基本的な図形の概念や直線の位置関係について理解し、図形を構成する要素などに着目して図形の性質や図形の計量について考えることでした。高さが具体的に示されていない複数の三角形について、それらの面積の大小を判断するのに必要な情報を見出し、その理由を記述する問題に課題がありました。

小学校算数2一（4）の問題です。

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊸と㊹の2つの三角形をつくります。



上の㊸と㊹の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。

下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ㊸の面積のほうが大きい。
- 2 ㊹の面積のほうが大きい。
- 3 ㊸と㊹の面積は等しい。
- 4 ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

誤答の要因としては、2つの三角形の高さが同じであることに気付くことができなかつたことと、具体的な数値が示されていないので比べることができないと捉えたことが考えられます。

具体的な数値が示されていない場合において、問題を解決する際に必要な情報を主体的に見出したり、適当な数値を当てはめたりして考えることができるように指導していきます。

【児童質問紙調査の結果と考察】

★生活習慣

「朝食を毎日食べているか」「毎日同じくらいの時間に寝ているか」「毎日同じくらいの時間に起きているか」など、生活習慣に関する調査では、全国平均より高い結果となりました。このことから、ご家庭と連携しながら進めている取組の成果が現れていることが分かりました。



★自己有用感

「自分にはよいところがあると思うか」という項目では、全国平均より高い結果となっています。これからも子供たちの良さを認め、伸ばしていきたいと思えます。

★学習習慣

「家で自分で計画を立てて勉強をしているか」という項目では、全国平均より高い結果となっています。また「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間勉強しているか」という項目では、2～3時間が60%、1～2時間が40%という結果になり、本校で目安にしている50分～60分という時間を全員が達成できていて、自主学習の習慣を身に付けているということが分かりました。



★国語・算数への関心等

全員が「国語や算数の勉強は大切だと思うか」「国語や算数の授業で学習したことは将来役に立つと思うか」などの設問へ肯定的な回答をしています。勉強が大切で役に立つと思えるなど、学ぶことの意義を見出せていることは素晴らしいことです。さらに、学習への興味関心を高め、意欲をもって主体的に取り組めるような働きかけを工夫していきたいと思えます。

これまでの結果を踏まえ、学校・家庭・地域が連携しながら、子供たちの学力向上や規則正しい生活習慣の定着を目指して取り組んでいきたいと考えています。

(文責：平松)